

## 文京区立本駒込幼稚園（2年目）

【園長】 藤田 智子  
 【幼児数】 52名  
 【学級数】 3学級



次の取組へ

### 【課題・改善】

#### ○幼児の運動意欲の継続、向上

⇒目標数値は概ね達成されたが、さらに幼児の運動意欲を引き出し、多様な動きを経験するための教材や環境設定の工夫について、専門家の助言を取り入れながら日常的に見直しを図り、実践していく。

#### ○家庭との連携

⇒保護者参加の行事や保護者会、降園時等に運動遊びを発信していくことで、保護者の「我が子と運動遊びで関わりたい」、「園での運動遊びの内容を知りたい」「運動して楽しかった」といった気持ちや意欲をより引き出していく。

⇒生活・運動習慣等調査より、保護者の就労等から就寝時間が不規則な幼児が少数いることが分かった。規則正しい生活習慣を身に付け、健康的な生活を過ごせるよう、引き続き啓発していく。

### 【1年目における実態・課題】

・探検隊や忍者など、遊びのイメージがあることで、体を動かして遊ぶことを楽しむ幼児が増したが、苦手意識をもち、すぐにやめてしまう姿も一部の幼児に見られた。

⇒幼児が「やってみたい」と思う園庭環境  
 幼児が自ら挑戦できる環境を目指し、園庭や固定遊具を見直し、幼児が思わず体を動かしたくなるような環境をつくる。

⇒保護者への啓発  
 保護者も一緒に体を動かして遊ぶ機会をつくり、親子で一緒に体を動かす楽しさを味わえる活動の充実を図る。

⇒アスリートとの交流  
 幼児が憧れるスポーツの選手やモデルとなる動きを見る機会を設け、幼児の多様な動きにつなげる。

### 目標

- ・様々な遊びを中心に、毎日合計60分以上楽しく体を動かしている幼児の割合を80%以上にする。
- ・様々な運動遊びに興味をもち、積極的に取り組む幼児の割合を90%以上にする。

### 【成果】

#### ○幼児が思わず体を動かしたくなる環境を工夫した取組

・遊びのイメージに応じて可動式運動遊具を扱って友達と場を作って遊んだり、固定遊具にロープや絵表示などを追加した環境を設定したことで、自然と多様な運動を経験したり、運動遊びに繰り返し取り組んだりする幼児の姿が多く見られるようになった。

#### ○保護者の運動遊び啓発を意識した取組

・運動遊びの内容を教師に尋ね、家庭でも我が子と共有しようとする保護者や、我が子と一緒に運動することで運動量を実感し、園での運動遊びの大切さに気が付いた保護者があり、保護者の意識の向上に繋がった。

#### ○アスリートとの交流

・オリンピックの努力の話を聞いて前向きに取り組む気持ちをもったり、オリンピックの動きをまね、幼児自らリズム遊びやマットを使った運動遊びを始めたするなど、運動意欲の向上につながった。

### 【取組】

#### ○幼児が思わず体を動かしたくなる環境を工夫した取組

・様々な組み合わせが工夫できる可動式運動遊具の提示  
 ・固定遊具等を活用して作る、個々の意欲を引き出す環境設定

#### ○保護者の運動遊び啓発を意識した取組

・保護者参加行事で体を動かして遊ぶ親子活動を取り入れ、体を動かす楽しさを味わう経験に繋げる。

#### ○アスリートとの交流

・オリンピックを講師として招へいし、モデルとなる動きを見せたり、実際に動いたりする機会を設ける。幼児のあこがれの気持ちや、自分もやってみたいという意欲を引き出し、多様な動きの体験に繋げる。

### 【取組（詳細）】

#### ○幼児が思わず体を動かしたくなる環境を工夫した取組～「面白そう」「やってみたい！」～

園庭の遊具等に工夫を加えて、幼児が自ら挑戦できる場を設定した。

- ・うんてい…園内に咲く様々な花の絵カードを貼り、自分の目標に向けて挑戦できるようにした。また、ロープを吊るしたり側面に張ったりし、挑戦する動きの幅を広げた。
- ・鉄棒…ロープでタイヤを吊るし、ブランコにした。
- ・ボールタッチ…ブドウ棚と大きなイチヨウの木をつないだロープから、カラーポリ袋で作ったリングやニンジンに鈴やボールなどを入れたものを吊るし、ジャンプしてタッチすることができるようにした。
- ・上り棒…棒と棒の間にロープを吊るし、バランスをとりながらのぼることができるようにした。また、上り棒の一部に傘を逆さに下げて玉入れ遊びができるようにした。透明の傘にしたことで玉が入った状況が目に見えて面白く、繰り返し楽しんでいった。



花の表示をつけて目標に



逆さ傘に玉を投げ入れる



ロープから下がった目標物にタッチ

#### ○保護者参加・参観の取組

- ・保護者参加の行事で、保護者との触れ

合いを楽しみながら親子で思い切り体を動かす活動を取り入れ、多様な身体の動きが体験できるようにした。事後に保護者から、「音楽に合わせて踊ったり、簡単なルールのあるゲームをしたりしながら、楽しい雰囲気の中で子どもたちが喜んで遊ぶ姿が見られて嬉しかった」「家庭でも一緒に遊んでみようと思う」などの感想をいただいた。



おうちの人と触れ合い遊び



音楽が止まったらフープイン



親子でドッジボール

#### ○オリンピックの講師招聘

・東京都教育委員会「笑顔と学びの体験プロジェクト」として、2020 東京オリンピック・体操日本代表選手を講師として招聘し、体験活動を実施した。子どもたちは、オリンピックの側転やバク転などの技を見たり、一緒にダンスや鬼遊びをしたり、メダルに触れたりする経験をした。スポーツ選手のすごさを身近に感じ、あこがれの気持ちをもつ様子が見られた。体験後は、いろいろな運動遊びに思い切って挑戦してみようとする姿が見られるようになった



思い切ってやってみよう